# 27PE-am003

早期体験学習の薬学教育効果に関する検討（第2報）

○宇佐美　英治[1], 須藤　規之[1], 石橋　雪子[1], 長内　知美[1], 小林　芳子[1],
苑田　京子[1], 内山　純子[1], 白木　洋[1], 野村　靖幸[1]（[1]横浜薬大）

(目的)薬学生の薬学履修意欲向上に、薬剤師や薬学出身者が活躍する場を入学早期に体験学習することが有効と考え、実施し成果を得た昨年度に引き続き、本年度も、病院薬剤部、薬局、薬学関連研究所への体験学習を実施し教育効果を検討した。本年度は人命の尊さを認識させるため、自動体外式除細動器（AED）を使用した心肺蘇生法についての体験学習も行った。以上の結果について報告する。
(方法) 1 年生全員を対象にして、暑中休暇中に、横浜市内を中心に、神奈川県内等の病院３２、薬局３５、生命科学系研究所９施設で早期体験学習を実施した。昨年度行った遠隔地施設での学習は取りやめた。学生 1 人につき 1 施設に派遣した。1 施設 1～3 人の教員が引率した。事前に医療人のマナー等の諸注意を徹底して行った。実施後レポートを提出させ、学生の薬学履修への意欲や卒業後の進路、見学先の印象、引率教員の対応、実施時期等について調査した。心肺蘇生法は、地元の戸塚区消防署員の指導により、約 3 時間、本学体育館にて実施した。
(結果および考察) 9 割以上の学生が、早期体験学習の意義を認め、また学習意欲が向上したと解答した。卒業後の進路を考える上で参考になったという学生は昨年度の６９％から９６％へ増加した。一方、約 1 割が実施時期の不適切さを指摘し、また病院、薬局、研究所全てを体験学習したいとの希望も多数あった。心肺蘇生法については、「人命救助の重要性を実感し、医療人の心構えができた。」「AED の使用法が習得でき、いざというとき扱える自信がついた」等ほとんどの学生が有意義と評価した。これらの点を考慮・改善した早期体験学習を次年度も実施する予定である。